

小学校国語科における自分の考えや気持ちを適切に表現できる児童の育成
 —自分の考えを形成するための支えとなる言葉の指導を通して—

研究構想図

長期研修員 佐藤 真由美

自分の考えや気持ちを適切に表現できる児童

手立て2 支えとなる言葉を基に自分の考えを形成させるための支援

○追究する過程に、児童が考えを形成する場面に合わせ、支えとなる言葉を基に考えの形成を促す支援の工夫を行う。

- 支えとなる言葉と考えを繋げるように促す。(考えの構築)
- 支えとなる言葉を基に考えを交流させる。(考えの広がり)
- 支えとなる言葉を基に再考を促す。(考えの深まり)

手立て1 支えとなる言葉を学ぶための支援

○単元の学習過程に、以下の学習場面を位置付け、言葉を正しく使える支援の工夫を行う。

支えとなる言葉:教科書に「重要語句」として挙げられている言葉、例文の欄外に「ポイント」として抽出されている言葉といった、単元で扱う言葉

学習場面	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
言葉のよさを 実感する	自分と友達が使った言葉を比較させる。	違う言葉に置き換えた差を比較させる。	使われている言葉と違う言葉に置き換えた差を比較させる。
言葉を使う	伝えたいことに合わせて、言葉を選ばせる。	単元で扱う言葉を使った文を例示したり短文作りをさせる。	自分の体験と結び付けて考えさせる。
言葉を知る	単元で扱う言葉の使い方を整理させる。	単元で扱う言葉の使い方を整理させる。	単元で扱う言葉を中心にした意味調べをさせる。

まとめる

言葉のよさを
実感する

言葉を使う

追究する

言葉を知る

つかむ

国の課題

言葉によるコミュニケーション不足による子供たちの人間関係の問題。(言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ)

児童

自分の考えや気持ちをどう表現したらよいのか分からない。言葉を意識的に使って表現できていない。

教師

児童が考えや気持ちをよりよく表現するにはどうしたらよいか。児童が言葉に目を向けるにはどうしたらよいか。



自分の考えを伝えたり、1年生と遊ぶときの目的や条件を
班で考えたりしながら、計画的に話し合うことができた。

手立て1

友達は、「可能性がある」と言っていたから遊ぶときのことを考えて**問題点**を言っていたのがよく分かったよ。今度使ってみよう。

【言葉のよさを実感する】

～比較させる言葉かけ～

「**問題点**を言うときに、友達はどの言葉を使っていましたか」

「ボールに人が集まるから**反対です**、と言ったよ。」



目的や条件に合っている遊びを検討しよう。

【言葉を使う】～選ばせる言葉かけ～

『目的や条件』という言葉を使ってみましょう」

「どうやって遊びを決めていけばいいのかな。」

《使う場面ごとに整理した支えとなる言葉》

主張:である・思う・考える

理由:だから・から・ので

根拠:～ということがあった・自分が～だった

問題点:反対・～の部分は賛成・可能性がある

まとめる:目的・条件・比べる・整理

※場面によって使い分ける

それぞれの言葉を、習ったことや教科書から考えて、整理しよう。

【言葉を知る】～整理させる言葉かけ～

『自分の**主張・理由・根拠**を明らかにして伝える』には、どの言葉を使えばよいのでしょうか」

計画的に話し合う方法をまとめる。

まとめる

話し合った結果や感想を共有する。

進行計画に沿ってグループで話し合う。

主張・理由・根拠を明確にして構成を考える。

進行計画を立てる。

追究する

計画的に話し合うために必要なことを考え、共通理解する。

話し合う目的を確かめ、学習の見通しをもつ。

つかむ

手立て2

(そうか。話し合いの中で、道具を使う危険性が**問題点**として出たんだ。) 道具を使う危険がない氷鬼がいいと思います。

【再考を促す言葉かけ】

「その考えは、**どの言葉から**変わったのですか」

「ドッジボールがいいと思ったけれど、氷鬼もいいんじゃないかな。」

「周りの班は、話し合っている班が計画的に話し合っているかを聞くんだね。」

【考えを交流させる場の設定】

少人数での話し合い活動

【言葉と考えを繋げるように促す言葉かけ】

『「～ということがあった」という言葉を使って**根拠**を伝えましょう』



「鬼ごっこがいいと思うけれど、どう言えばいいのかな。」

「計画的に話し合うためには、このようなことができればいいんだね。」

《計画的に話し合うために必要なこと》

- ・目的や条件を確かめる。
- ・話し合いの前に、自分の主張や理由、根拠を明らかにしておく。
- ・お互いの考えをよく聞いて、問題点を見つけて伝える。
- ・考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いを繰り返して、結論を出す。

《単元の学習課題》

目的や条件に合わせて計画的に話し合い、1年生と遊ぶ内容を決めよう。

成果と課題

- 自分の考えを形成するための支えとなる言葉の指導を通して、児童が言葉に目を向けながら自分の考えを形成し、自分の考えを自信をもって適切に表現する姿が見られた。
- ▲他の人の意見から、自分の考えを調整して表現するための「聞き方」の指導が必要である。

提言

- 国語科全体で、自分の考えを形成するための支えとなる言葉の指導を繰り返していくことで、児童が言葉への自覚を高め、考えや気持ちをより適切に表現していこうという意欲につながっていくと考える。